

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第4回理事会 開催日：6月20日。出席者：佐野会長
他 36 名。

会議事項

- 表彰奨励選考分科会主査，委員委嘱の件
主査 河田理事（金材研）
委員 荒木編集委員長（東大），長谷川（早大），木下（通産省），三井（八幡），久田（富士），中野（鋼管），吉田（川鉄），河西（住金），中司（三菱製鋼）各理事

以上の通り委嘱することを決定。

- 企画委員委嘱の件
梅根英二君（富士製鉄，技術開発部）を委嘱することを決定。
- 常務委員担当職務追加の件
松下常務委員の担当職務に研究のほか編集を追加することを決定。
- 共同研究会計測部会長の解嘱委嘱の件
桂寛一郎君（日本鋼管，常務）解嘱し，池上平治君（日本鋼管，技術）を委嘱することを決定。
- 各委員会規程制定，変更の件
企画委員会原案通り決定した。
- 第18回塑性加工連合講演会共催について
日時 42年11月17，18日
場所 日本都市センター
共催 軽金属，高分子，精機，機械，材料，伸銅塑性加工，鉄鋼各学協会
分担金 5千円以内（従来本協会は4千円）
共催に決定
- 第8回真空に関する連合講演会協賛について
期日 42年11月13～15日
場所 科学技術館ホール
主催 真空協会
協賛 電気通信，照明，応物，電頭，化学工学，質量分析，金属，鉄鋼各学協会協賛に決定

企 画 委 員 会

第4回委員会 開催日：6月16日。出席者：吉崎企画委員長，他 17 名。

会議事項

- 各委員会規程制定，変更の件
各委員会規程を統一した形で制定，変更を行ない字句の若干の修正の後，理事会に諮ることになった。
- 特別表彰選考委員会について
俵ゴールドメダルの授与を来年あたり行なう予定である。表彰奨励選考分科会にある程度人選につき意見交換を願い，それを参考に本委員会で協議することになった。

- 特別資金運営委員会委員案について

佐野会長，武田，橋口両副会長，三島，山岡各前会長，荒木編集，吉崎企画，三本木研究各委員長木下理事，田畑専務理事，三井会計分科会主査以上の構成案を理事会に諮ることになった。

研 究 委 員 会

第4回委員会 開催日：6月20日。出席者：佐野会長
三本木委員長，他 22 名。

会議事項

- 技術講座に関する検討
第11回技術講座のテーマを「鋼の高温特性」とし同時に作井教授退官記念講演を特別講演として行なう計画が了承された。
- 基礎共同研究委員会について
微量元素部会昭和43年度計画：通産省補助研究予備申請案了承さる。
溶鋼溶滓部会昭和43年度計画：科学技術庁委託研究予備申請案了承さる。
- 高温引張共同研究の昭和43年度計画
クリーブ委員会昭和43年度頭書研究を自転車振興会の補助金事業に申請することが承認された。
- PC鋼材小委員会（仮称）の設立について
土木学会よりの非公式研究依頼による上記研究に対し種々検討され次回再検討することになった。
- 教育問題
事務局より他学会の取り組み方が報告され種々討論されたが次回大手各社の状況を報告することになった。

編 集 委 員 会

第3回運営委員会 開催日：7月18日。出席者：荒木委員長，他 13 名。

会議事項

- 委員委嘱について
和文会誌分科会担当委員として
中村昌平君（鋼管技術部）
吉谷 豊君（富士技術開発部）
黒崎昭二君（富士生産管理部）
藤巻弘昭君（八幡技術開発部）
以上4氏に委嘱することになった。
- 寄稿規程について
規程案により検討し，規程の解説をつけることになった。
他学協会よりの受賞候補論文推薦依頼について
編集委員会にて推薦を計ることになった。

第5回和文会誌・第3回講演大会合同分科会

開催日：10月4日。出席者：荒木・草川主査，他21名。
会議事項

1. 第74回講演大会講演プログラム編成について
一般講演申込 321件, 討論講演 27 件あり, 製鉄, 製鋼, 加工, 性質 8 会場にそれぞれ編成した。

その他特別講演 2 件, 部会報告 2 件が行なわれる。

第5回欧文会誌分科会 開催日: 7月17日. 出席者:
橋口主査, 他 20 名.

会議事項

1. Transactions 寄贈先については, 英文校閲者が提出した資料よりも, 広範囲の資料(大使館・国内寄贈先も含める)で, かつより細かく分類されている資料が必要とされたので, 英文校閲者が次回に再び修正案を提出し, 検討することになった。

2. 論文審査報告がなされ 5 論文が掲載可, 1 論文は修正必要。

3. 30件の論文が依頼論文として推薦されそのうち 3 件の依頼が決定した。

資料委員会

第4回委員会 開催日: 7月19日. 出席者: 草川委員長, 他13名.

報告事項

1. 5, 6 月の図書資料入手状況の報告。

2. 鉄連発行の鉄鋼資料月報に協会入手資料も掲載され, その合併号が 5 月号からスタートした。

3. 資料費 3~7 月の支出実績について報告された。

会議事項

1. 8月号掲載の資料室だよりについては「ペネルックス, 西独鉄鋼業使節団報告書」とそのもち帰り資料を掲載するもので, 事務局から提出した案についてはもう一度文章のアレンジをしなおした上で掲載することに決定。

2. 鉄鋼協会図書資料分類方法については Subcommittee を設けて審議された。その結果, 26項目による大分類と 136 項目の中分類から作成された分類は, 鉄鋼業の習慣的系列によるものである。この分類方法を本委員会で検討したが意見の一致をみず, 次回各委員分類方法について研究してくることに決定。

共同研究会

製鋼部会 鑄型分科会

第19回分科会 開催日: 12月2, 3日. 出席者: 岡部主査, 他 79 名.

会議事項

住友金属和歌山製鉄所にて第1日目および第2日目の午前中研究発表を行ない, 午後和歌山製鉄所の見学を行なった。

研究発表は鑄型の使用管理に関し 7 件, 鑄型材質に関し 6 件, 鑄型および定盤の設計基準に関し 6 件の発表があり, 特別講演として日本鑄造より「当社における直鑄工場の現況とこれ迄の経緯」の講演がなされた。

鋼板部会

厚板分科会

第23回分科会 開催日: 5月15, 16日, 出席者: 有村(吉田主査代理)代理主査, 他 48 名.

会議事項

1. 共通議題 工場操業状況および作業定員調査表

2. 厚板の品質管理について

(1) 品質管理の組織とその体制

(2) 品質上の問題とその対策

以上の議題について各社から資料が出され, 活発に討議された後, 川崎製鉄千葉製鉄所の見学を行ない盛会裡に終った。

次回神戸製鋼所尼崎工場の予定。

特殊鋼部会

第32回部会 開催日: 7月6, 7日. 出席者中野部会長, 他 104 名.

会議事項

1. 「造塊過程における外的混入物の挙動について」日本製鋼所室蘭製作所製鋼部長, 守川平四郎氏により特別講演が行なわれた。

2. 共通議題「特殊鋼の品質と製造技術に関する研究」について多くの報告がなされ, 活発な討議が行なわれた。

3. 共通議題「品質水準の現状と問題点」について多くの報告および討議が行なわれた。

4. 日鋼(室蘭)および富士鉄(室蘭)の工場見学が行なわれ, 盛会裡に終った。

鉄鋼分析部会

第20回部会 開催日: 5月27日. 出席者: 池上部会長 他 49 名.

会議事項

1. 化学分析分科会経過報告

2. 非金属介在物分析小委員会経過報告

3. 蛍光X線分析分科会経過報告

4. 発光分光分析分科会経過報告

5. ほたる石分析小委員会経過報告

鋼中非金属介在物分析小委員会

第11回小委員会 開催日: 5月26日. 出席者: 神森幹事, 他 9 名.

会議事項

1. 酸溶解法の第 1, 2 回共同実験に使用した試料(日鋼 E)の化学成分および清浄度について

2. 各所における酸化物系介在物の分析について
分析目的によつて分析法の適用が異なるので委員会としては適用鋼種定量下限などについては具体的に決めない。

3. 合成シリケートの酸法における溶解度

4. 鋼中析出物介在物分離微量残渣分析方法

5. 18-8ステンレス鋼や酸化介在物の熱履歴に伴う組

成変化に関する文献要約

6. 超音波を利用するヨウ素メタノール法について

鉄鋼化学分析分科会

第4回分科会 開催日：4月26, 27日. 出席者：神森主査, 他43名.

会議事項

1. 鉄鋼化学分析方法 JIS 原案作成の進行状況の説明確認

2. 原案作成, 共同実験, 許容差決定の各作業の進め方について

3. 各成分の実験結果についての検討

(1) けい素—これまでの結果をまとめて最終原案を作成 (2) りん—吸光光度法についてのみ第2回の共同実験を行なう (3) 銅-Ni と Co を含む試料については次回報告 (4) ほう素—学振の検討結果を参考にする (5) 窒素—実験中なので次回にまとめる (6) イオウ— KIO_3 滴定法を中和滴定法と平行して採用する (7) モリブデン—実験中 (8) マンガン (9) ニッケル (10) クロム (11) タングステン (12) アルミニウム (13) 鉛 (14) マグネシウム (15) ジルコニウム (16) パナジウム (17) チタン (18) ひ素

4. 許容差について (1) 許容差を求める実験にユーザーを加えるか否かについて各社関係先と打合わせる (2) 一応当分科会のみで実験を行なう (3) 許容差の表示は成分含有率範囲で段階的に区分する. その他

ほたる石分析小委員会

第1回小委員会 開催日：5月25日. 出席者：池上部会長, 村岡小委員長, 他16名.

会議事項

1. 小委員会設置経過の説明

輸入鉍石品位調査委員会委員長よりほたる石サンプリングを検討するため, ほたる石分析方法 JIS 化の要望書が鉄鋼協会に提出されたので鉄鋼分析部会内に小委員会を設置して分析方法を検討することになった.

2. 運営方針—各社の現行分析方法をもとに統一をはかり, 42年末を完成目標にして審議を進める.

3. 各社の分析方法について説明があつた後, 共同実験要領を決定し, 次回(9月)に検討する.

鉄鋼生産設備能力調査委員会

鋼板部会
厚板設備分科会

第2回分科会 開催日：6月22, 23日, 出席者：有村主査, 他18名.

会議事項

1. 第2回圧延設備総合部会報告

2. 加熱炉能力算定小委員会委員選出

3. 圧延平均圧下率の討議

4. 圧延各係数の討議

5. 仕上温度調整係数の討議

6. 適正稼働時間の討議

7. 歩止についての討議

8. 加熱炉の各係数の討議

9. その他

条鋼設備部会

中小形設備分科会

第3回分科会 開催日：7月4日. 出席者：中西主査他15名.

会議事項

1. 第2回圧延設備総合部会議事報告

5月24日開催された第2回圧延設備総合部会の議事報告を通じ, 前回分科会で問題となっていた簡略式の考え方, neck にならない設備の考え方, 標準稼働体制の考え方がそれぞれ説明された.

2. 加熱炉能力算定式の見直し

炉補正係数 C_1 , 素材形状係数 C_2 , 鋼種係数 C_3 について検討した.

3. 圧延設備能力算定式の見直し

連続ミル, 半連続ミルに分けて, 諸係数の見直しを行なったが, もう少し, 裏付けのあるものにすべきであるとの意見が強く, 各社再度現有のデータ, およびタイムスタディーによるデータをアンケートにより求めることになった.

鋼管設備部会

第6回部会 開催日：7月4日. 出席者：山田主査代理他22名.

会議事項

簡略式についての意見の統一をはかり, 以後マンネスマン, 電縫管にわかれ審議を進めた.

1. マンネスマン関係

各社で算定式に実績を入れ検討したところ管材加熱炉の能力が実績より小さ過ぎる点, および品種構成で一部不明確な点がわかつたので一部算定式を修正した.

2. 電縫管関係

設備バランス係数, 設備使用係数を決定し, 見直しは一応終了し, 次回までにこの算定式を使用し実績をチェックすることになった.

標準化委員会

特殊鋼分科会

第7回分科会 開催日：3月22日. 出席者：西主査, 他13名.

会議事項

1. JIS Mn 鋼の経過報告—3月23日の標準化委員会にはかり工技院へ答申することになった.

2. 42年度の事業計画について工技院水野技官から次の説明があつた. (1) 鉄鋼用語 (2) サルファープリント試験法 (3) 機械試験法 (4) プリキ板 (5) 鋼材のキズ, 欠陥名称 (6) 低温用鋼板 (7) みがき棒鋼 (8) 鋼材の検査通則の見直し

(1) JIS SC材データシートの検討について

主査より JIS の制定, 改正を適正に行なうために常時必要なデータを備える必要があり, 従来解説のあとがきに書かれたことが調査されずそのまま次回の見直しに入る傾向がある. 調査すべき事項は多いがとりあえず SC

鋼の質量効果を考えた機械的性質のデータを収集したい旨説明があつた後、若干の討議があつた。

(2) 特殊鋼分類体系について

工技院から作成依頼があり、特殊鋼分科会でとりあげることになつた旨主査から説明、各委員から意見が出された。

第8回分科会 開催日：4月21日。出席者：協会吉田部長，他19名。

会議事項

1. 議題 (1) 工業技術院より依頼された加工技術“熱処理”のJIS案に対するアンケート結果とりまとめについて

(2) JSO/TC17 モスクワ会議に提出のコメント作成について

2. 概要

(1) 工技院側から主な説明が行なわれた後、若干の質疑応答があり、結局試料「金属熱処理JIS原案に対する各社の意見要点」により逐次審議し、意見書を取りまとめ工技院に答申することとした。

(2) 6月中旬モスクワにおいて開催されるISO/TC17の会議に提案されるDraftに対し日本のコメントを作成するため検討分担を決定した。

第9回分科会 開催日：5月17日。出席者：西主査，他13名。

会議事項

(1) ISO/TC17 WG4 コメント審議一前回決定した各社担当分について審議を行ない、日本としてのコメントを決定。

(2) JIS みがき棒鋼規格原案について

(3) JIS 特殊鋼規格分類体系について

(2)および(3)の議題については資料を配布したにとどめ、審議は次回に行なうことにした。

第10回分科会 開催日：6月16日。出席者：西主査，他13名。

会議事項

1. JIS みがき棒鋼見直しについて

資料 特-9-7「JIS みがき棒鋼見直しの考え方と問題点」について、次の点を検討した。(1)加工方法の種類 (2)みがき加工を施す目的 (3)みがき棒鋼の定義 (4)みがき棒鋼の用途 (5)機械的性質 (6)寸法許容差 (8)標準寸法、形状の種類 (9)脱炭層、表面アラサ (10)曲り、長さの許容差 (11)適用鋼種について

2. 特殊鋼規格分類体系

前回配布の資料特-9-9「規格体系立案の問題点」に従って意見交換を行なつたが、次回の密題として分類表を作成してくることになつた。

3. ISO/TC17/WG4の次回会議について

42年12月4～7日に開催される次回会議には代表を送ることとし、その人選は後日改めて行なう。

ブリキ分科会 開催日：6月19日。出席者：安藤主査，他11名。

会議事項

7月4、5、6日ロンドンにおいて開催予定のISO TC19/WGの日本代表に吉田(鉄鋼協会)、迫田(東洋鋼鉄)の両氏が決定した旨報告があり、次いで同会議に

提出される議題につき討議を行なつた。

この結果より早急に日本コメントを作成しISO本部に送付するとともに、迫田代表が写しを持参することに決定しその線にそつて協会が準備を進めることとなつた。

鉄鋼標準試料委員会

第20回委員会 開催日：4月25日。出席者：池上委員長，他21名。

会議事項

1. 鉄鋼標準試料委員会規程の承認

2. 今後の製造計画について打合せを行ない、リン専用鋼、イオウ専用鋼、炭素鋼、ステンレス鋼の在庫量が6カ月以内と考えられるので製造に着手することになつた。

3. 日本鋼管製造のフェロシリコン、低炭フェロクロム、高炭フェロマンガンについては新JIS分析方法で分析をやりなおすだけで新標準試料にくりこむ。八幡製造のフェロアロイは規格はずれが多いので標準試料として使用しない。新フェロアロイに関しては見積り条件その他についてフェロアロイ協会に対策を考慮してもらう。

4. 鉱石類は、旧22号aのマンガン鉱石、フェロアロイ協会手持ちのマンガン鉱石とクロム鉱石を新JIS分析方法で分析し新標準試料とする。

5. 鋼中酸素標準試料需要調査結果について説明があり、住金で試作計画があるので委員長から試作依頼するとともに試作品の分析試験についても協力することを決定。

材料試験原子炉利用委員会

第1回委員会 開催日：5月23日。出席者：長谷川委員長，他27名。

会議事項

1. 各社から試片提供申込書の内容についての説明が行なわれた。

2. 資料JMTR 試用期間中の鉄鋼試験計画について委員長が説明を行なつた。

3. 原研、大内委員より試験片の規格の説明があつた。

第2回委員会 開催日：6月27日。出席者：長谷川委員長，他30名。

会議事項

1. 委員長より第4次照射試験研究の補助金が却下されたこと、原研ホットラボの処理能力が不確実になつたことから当初計画を変更せざるをえなくなつた旨説明があつた。

2. 委員長より資料2-1について試験の種類をA、B、C、D類にわけること、そのほかについて説明があり若干の討議が行なわれた。

3. 原研、大内委員よりあらためてスケジュールの説明があつた。

鉄鋼基礎共同研究会

非金属介在物部会

キルド鋼分科会

第11回分科会 開催日：6月13日。出席者：荒木部会長，他 11 名。

会議事項

1. 前回議事録確認
2. 報告書とりまとめ幹事の選出について
とりまとめ幹事を関東特殊鋼と日本製鋼所に決定した。
3. 各委員より試験の中間報告が行なわれた。

転位論グループ

第5回連絡会 開催日：4月22日。出席者：橋口世話人，他 5 名。

会議事項

1. 研究連絡発表会
幸田委員代理の茅野氏より「鉄中の介在物および析出物の囲りからの転位の発生と降伏現象」について報告があり討論が行なわれた。
2. 昭和42年度共同研究資金の運用について
鉄鋼協会石原研究奨励資金による共同研究の運用に関し事務局案を検討し次回再検討することになった。

純鉄グループ

第1回会合 開催日：6月19日。出席者：草川世話人，他 28 名。

会議事項

1. 「純鉄の zone refining について一般的概説」について東工大中村正久および坂本庸晃委員より研究発表があり，活発な討議が行なわれた。
2. 「純鉄および Fe-C 系合金の変形応力におよぼす歪速度の依存性について」八幡の三村氏より研究発表があった。
3. 「zone refining に関する 2, 3 の考察というテーマで活発な討議があった。

鉄鋼の照射試験研究合同委員会

第25回委員会 開催日：3月27日。出席者：長谷川委員長，他 28 名。

会議事項

1. 議事録確認
2. 1, 2 次成果報告書の件
補助金確定すればただちに 100 部印刷する。
3. 3 次試験経過報告
4. 第 4 次照射試験研究補助金申請のための各委員の研究案の検討—K F I グループ，KMN グループ，八幡日立，三原グループ，NKK の各試験案が説明されたがカプセルと試片本数の関係に問題があり，M A P I 委員に次回までに検討しておいていただくよう決定。

第26回委員会 開催日：5月22日。出席者：長谷川委員長，他 26 名。

会議事項

1. 2 次実績報告書の訂正表について
2. 3 次試験経過報告について
3. 3 次試験結果のとりまとめについて
4. 4 次補助金申請について
5. G F T R との交渉経過について
以上につき検討した。

第27回委員会 開催日：6月26日。出席者：長谷川委員長，他 25 名。

会議事項

1. 前回議事録確認
2. 4 次試験について非公式ながら補助金申請は不採択になった旨報告
3. 3 次試験の実情報告書とりまとめ要領検討
4. 3 次照射前試験の各委員報告および検討

新 入 会 員 氏 名

(昭和42年5月1日～31日)

維持会員		正会員	
川崎重工業(株)技術研究所	2口	佐武 二郎	住友金属工業(株) 中技研
東海特殊鋼(株)	3口	阪本 喜保	〃 〃
(株)東京衡機製造所	2口	重松 博行	〃 和歌山
日本揮発油(株)	5口	小野 義之	〃 小倉
日本石油化学(株)	1口	上野 康	日本鋼管(株)技研
		福中 司郎	〃 〃
		手塚 勝人	〃 川崎
		山形 敏明	(株)神戸製鋼所中研
		山田 凱朗	〃 〃
		金原 邦雄	〃 〃
		奥 寛美	八幡溶接棒(株)
		山田 輝久	〃 〃
		高田 博司	八幡製鉄(株)堺
		吉井 正孝	〃 技研
		永田 岩男	愛鋼工業(株)奈良
		坂々 光雄	〃 〃
		室 博	東洋ペアリング製造(株)
		富塚 辰造	スコットアンド・イングリッシュ商会(株)
		古川 勇	日本ステンレン(株) 直江津
		田村 至	三菱製鋼(株)長崎
		寺前 章	富士製鉄(株)中研
		広畑 努	大谷重工業(株)尼崎
		平松 義夫	中京製線(株)
		山田 忠政	愛知製鋼(株)
		帆足 純	東京芝浦電気(株)
		加藤 和男	スターライト工業(株)
		杉山 正夫	(株)吾嬬製鋼所
		砂川 淳	曙プレーキ工業(株)
		福永 恵介	岡部(株)
		仙波 勉	仙波工業(株)

佐藤 素	神奈川県工業試験所	筒井 光範	〃	沖 宏治	〃
内田 重男	名古屋大学	東郷 文孝	〃	屋宮 二夫	〃
吉田 邦夫	東京大学	富沢 達	〃	押川 隆光	〃
	学 生 会 員	中野 耕作	〃	木下 勝弘	〃
秋松 宣章	早稲田大学工学部	浪崎 浩一	〃	酒井 輝義	〃
明丸 興造	〃	野田 吉彦	〃	境 哲彦	〃
伊藤 滋	〃	早川 敏清	〃	白木 信義	〃
伊藤 節	〃	平田 敏之	〃	菅屋 時世	〃
一条 久夫	〃	平山 良夫	〃	田中 純彦	〃
今枚 繁	〃	裕川 典雄	〃	竹内 邦明	〃
宇野 晃	〃	不破 章雄	〃	友岡 泰二	〃
江口 好弘	〃	福島 巍也	〃	那賀 博和	〃
緒方 和郎	〃	藤山 新	〃	中安 晟	〃
大竹 順孝	〃	古宮 尚美	〃	永田 紘文	〃
大塚 文明	〃	細川 能夫	〃	島野 康弘	〃
奥村 和男	〃	間野 純一	〃	東 経夫	〃
加藤 英夫	〃	升谷 治樹	〃	藤崎 優	〃
金子 郁夫	〃	増田 友之	〃	牧 安	〃
木内 等	〃	増富 寛治	〃	益田 昌宜	〃
城戸 一彦	〃	松井 一弘	〃	溝口 忠夫	〃
北田 溜彦	〃	三浦 実	〃	村上 宏憲	〃
北原 亘理	〃	三木 崇雄	〃	本川 博之	〃
北村 邦明	〃	八巻 勇	〃	加藤 兵衛	名古屋大学工学部
金原 正治	〃	山上 諄	〃	西川 潔	〃
草野 健一	〃	山路 哲男	〃	久田 秀夫	〃
桑原 成一	〃	山田 耕平	〃	森田 栄一	〃
小林 正志	〃	山田 喬進	〃	福井 敏	京都大学工学部
今野 尚志	〃	横山 守利	〃	柳生 和威	〃
佐藤 和人	〃	吉田 幸弘	〃	片岡 罔彦	东北大学工学部
佐藤 孝夫	〃	吉村 啓介	〃	沢 博之	〃
佐藤 徳雄	〃	和田 正美	〃	竹脇 正広	富山大学工学部
佐藤 幸雄	〃	渡会 盛人	〃	柴田 浩司	東京大学工学部
佐藤 隆三	〃	佐藤 邦弘	〃	後藤 弘史	東京工業大学大学院
須賀 滋	〃	助野 琢也	〃		外 国 会 員
須斉 嵩	〃	浅山 宏	熊大本学工学部	João Samuel De	(Brazil)
多田 彰吾	〃	磨井 泰一	〃	Araújo Valle	
田中 靖文	〃	江島 一之	〃	Mário Baimundo	(Brazil)
竹中 康雄	〃	江夏 豊和	〃	Fortes Monteiro	
館野 正毅	〃	大田 一郎	〃	Takashi Honda	(Brazil)
棚来 敏幸	〃	大坪 幸雄	〃	Bené Winand	(Belgium)
谷 信之	〃				

1967年セラミックスフェア開催案内

共 催	窯業協会，日本工業新聞社
会 期	昭和49年9月7日(木)～13日(水)
会 場	東京国際貿易センター2号館(東京・晴海国際見本市会場)
	入場無料